

ICCAIA ボード及び総会参加報告

ICCAIAのボード及び総会が、2025年3月にモントリオールで開催された。ボードメンバーである専務理事の代理として出席したので、その報告を行う。あわせて、ICCAIAカンファレンスも開催されたので、その概要を報告する。

1. ICCAIAボード(2025年3月27日 午後開催)

ボード会議の冒頭に、ICAO事務総長 フアン・カルロス・サラサル氏が参加され、参加者とICAOについての情報交換や意見交換

を行った。ICCAIAは議論を踏まえてICAO活動を支援する声明文を纏めていくこととした。以下は、アジェンダ項目毎に要旨を記載する。

	項目	内容
1	アジェンダの承認	事前の資料通り承認された。
2	ICCAIA拡張計画の状況説明	カナダ ケベック州との協力協定の履行を含めて計画通りの進捗であることが説明された。
3	新規会員拡大の取組についての説明	韓国航空宇宙工業会（KAIA）のアソシエイトメンバーとしてICCAIAへの参加の調整が進んでいること、シンガポールエアショーで勧誘のセミナーを検討すること、新たなカテゴリー（産業が小さな国など向け）の創設の検討を行うこととした。
4	2024-2025予算執行状況についての説明	当初は旅費の出費がかさんだが、年度では予定通りになる見込みとの説明がおこなわれた。
5	Executive Vice-Presidentの役割の定義について	ICAO駐在のメンバー（2名）の名称をExecutive Vice Presidentとすることに係る、By-Lawsでの記載内容についての討議。引き続き弁護士の見解を聞くこととした。
6	ICAO第42回総会について	2025年9月23日より開催されることが正式に決定されており、ICCAIAとして総会に提出するペーパーの調整を各技術委員会で進めていることが報告され、5月にボードへ承認を求める予定であることが示された。
7	ICCAIAのスタッフの評価方法について	目標設定と評価などを行っていくことが説明された。
8	米国政府の関税などの新たな政策についての影響	AIAB（ブラジル）、AIAC（カナダ）、FEMIA（メキシコ）からはサプライチェーンへの影響について意見が述べられた。
9	ASD専務理事について	Jan Pie氏は5月のASD総会で交代する予定であることが本人より述べられた。
10	ICCAIAカンファレンスについて	3/26より開催されている同カンファレンスについての意見交換。3年間隔（ICAO総会の開催サイクルと同じ）で開催していくことが承認された。

	項目	内容
11	次回ボード開催日程	ICAO第42回総会にあわせ、2025年9月22日に開催することとした。
12	その他	議長より、SAFについてエネルギー業界のTOPとのインターフェースを設けてSAFの量の確保などについて協議していくことの提案があった。ストラテジーコミッティで協議することとした。

2. ICCAIA総会（2025年3月27日 午前開催）

今回のICCAIAの総会（Annual General Meeting）は、ICCAIAカンファレンスの会場でおこない、カンファレンスの参加者にもICCAIAの活動を知ってもらう機会とした。アジェンダや会計報告などの承認に続き、各委

員会の報告が行われたので、その要旨を記載する。なお、各委員会からの報告の最後にICCAIAの事務局より、幾つかの技術委員会においては議長や副議長の成り手不足が課題となっているとの補足説明がなされた。

	項目	内容
1	ストラテジーコミッティ	月次開催（WEB）を基本とし、ICCAIAのICAOや他の団体との関係で課題となる事項の調整のほか、ICCAIAの5年戦略の見直しやICCAIAカンファレンスの準備などを支援した。
2	Aircraft Noise and Emissions Committee (ANEC/騒音・燃焼委員会)	CAPE13会議（2025年2月開催）における騒音とCO ₂ の達成目標の合意とNON-CO ₂ に対する見解の作成に主に取組んだ。その他に、離発着時やクルーズ時のNox基準、超音速機の離発着時の騒音基準、LTAGのモニタリング等に取り組んだ。
3	Airworthiness Committee (AWC/耐空性委員会)	耐空性に関するトピックスとして、MRO基準とオーデット要求事項及びサーティフィケートの調和、eVTOLSや電動化の定義について説明。また、ICAOの関連するパネル（Safety Management Pannelなど）に対する活動を報告。
4	CSN/ATM Committee（通信・航空管制委員会）	電波干渉の飛行安全や運航に対する影響についての説明。その他に、同委員会内で議論している、enhanced Minimum Crew Operation, True North, Hyper Connected ATM, Connected Aircraft, Autonomous Distressなどについて説明。
5	Health, Facilitation and Crisis Response (HFCR) Committee（健康・設備・危機対応員会）	コロナ禍の対応が一段落したので、ICAOでの設備関連で将来の危機対応に備える活動（CAPSCA等）を支援している。
6	Security Committee（セキュリティ委員会）	サイバーセキュリティとICAOのTrust Frame Work Pannelへの対応を主に行っている。ICAOに関連する他団体（IATAなど）との情報交換も実施。
7	Advanced Air Mobility (AAM) Advisory Group	Urban Air Mobilityの実現のために、AAMのエコシステムの包括的な評価に取り組む。ICAOの第一回AAMシンポジウムに参加。



Key Noteでお話される ICAO理事会議長 サルバトーレ・シャクターノ氏

3. ICCAIAカンファレンス（2025年3月26日～28日開催）

ICCAIAの活動をICAOのステークホルダーに幅広く知ってもらい、ICAOでのICCAIAの認知度を更に高めるために、初めての企画としてICCAIAカンファレンスをモントリオールにおいて開催した。会期は3/26からの三日間（各半日）とし、各国のICAO駐在代表や駐在員、ICAO事務局の幹部や職員から多数の参加を得て行われた。初日のKey NoteではICAO理事会議長にも登壇して頂いた。カンファレンスでのセミナーには産業界を中心にパネリストが登壇し、それぞれのテーマに沿ってプレゼンテーションなどをおこなった。また、会期中にはカクテルレセプションも開催され、ICAO関係者と産業界メンバー

の盛んな交流が図られた。なお、このイベントはICCAIAの財政的な負担をなくすためにスポンサーシップを募り、そこから得た資金で運営をおこなった。

所感

ICCAIAカンファレンスの機会に、ICAO関係者だけでなく普段はWEB経由でしか会えないICCAIAの技術委員会のメンバーとも会うことができた。民間航空機の分野に限られるがICCAIAは貴重なネットワーキングの場であることを再認識した。各技術委員会についても広く参加が可能である。参加のご希望やご質問がありましたら、小職までお知らせいただければ幸いです。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 国際部部长 羽中田 実〕